

令和6年度 第2回栃木市総合教育会議 会議録

日 時:令和7年1月28日(火) 午前9時30分～午前10時30分

場 所:栃木市役所 4階 議会全員協議会室

出席者

(構成員):大川秀子市長、青木千津子教育長、後藤正人教育長職務代理者、
福島鉄典委員、西脇はるみ委員、大塚裕子委員、館野知美委員、林慶仁委員

(事務局):癸生川 総合政策部長、押山 総合政策課長、佐藤 教育次長、渡辺 教育総務課長、
加茂 蔵の街課長、小林 生涯学習課長、その他担当職員

内 容

1 開 会

2 あいさつ

○大川市長

第2回栃木市総合教育会議に早朝よりお集まりいただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から教育行政に対しまして何かとご協力をいただいておりますこと、この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

今年度が小平浪平生誕150年記念の年であるということで、本市としても様々な事業を行ってまいりました。令和5年から、都賀町の生家や、日立市の施設への訪問など、2年間で約400名の市民の皆様にはツアーにご参加いただいたところです。大変好評で、改めて小平浪平の功績を感じたという意見が寄せられております。

また、1月15日には教育委員の皆様にもご参加いただきましたが、シンポジウムを開催いたしました。小平浪平は明治7年1月15日に生まれ、シンポジウムが令和7年1月15日に開催となり、年号は違いますが、偶然にも同じ日となり、会場には約300人と多くの皆様にご参加いただきました。

さらに、現在子どもたち向けの小平浪平の社会科資料集としてデジタルブックを作製中であり、学校の中で学べる環境をつくろうということで、準備をしております。

総合支所のモデル事業であります都賀の複合施設の開所式が、2月9日に行われ、2月25日から業務開始となります。過日内覧をしてまいりましたが、とても充実しており、市民の皆様が訪れやすく、また、図書館も併設し、会議室も充実しておりますので、地域活動も活発になるのではないかと思います。

本日は、「栃木市読書活動推進計画(案)」と「歌麿を活かしたまちづくり」について意見交換を行う予定であります。

大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」が1月5日に初回が放映され、栃木市も歌麿と蔦屋重三郎に関係している街ということで、台東区の方からご案内があり、私と担当職員と歌麿を活かしたまちづくり協議会会長で大画面のパブリックビューイングにて第1話を観覧してまいりました。関係する市町ともよい関係が今後築ければと白河市の首長とお話をさせていただきました。

どんな形で栃木市が取り上げられるのか楽しみにしており、蔦屋重三郎を通して、歌麿を盛り上げていける年になるのではないかと考えております。ぜひ、今日はそんな意見交換会をしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

3 協議・調整事項

① 栃木市読書活動推進計画(案)について

○事務局:教育委員会事務局 生涯学習課

※資料により説明

○大川市長

皆様からのご意見・ご質問を伺いたと思います。

○館野委員

説明において、ヤングアダルトコーナーの充実とあったが、市内の図書館においてもヤングアダルトコーナーがとても充実してきていると思う。各図書館の司書の方が力を尽くしているのだなと伺うことができとても良いと思う。

○生涯学習課長

以前の読書活動計画を分析していく中で、そういった傾向があると判明したので、さっそく本年度から図書館と連携し、ヤングアダルトコーナーをさらに充実させることとなった。

今回、新しく都賀の図書館がオープンするが、都賀中学校の生徒にどのような本を好むのかというアンケートに協力してもらうなどの連携をしていただいた。

また、中学校の美術部の生徒に図書館のポップをつくっていただくことで開館に備えたり、藤岡の図書館においては、バスを待つ間に図書館を利用していただくよう働きかけるなど、今後も他の図書館においてヤングアダルトにおいて、いかに読書慣習をキープさせるかということが重要になってくるため、計画の前倒しという形になるが進めていきたいと考えている。

○大川市長

都賀の新しい図書館を見に行ったが、ヤングアダルトコーナーや幼児コーナー等があり、ある程度の年代別に分かれている。図書館に入ってすぐのところ幼児コーナーであるが、子どもは目から入ることが多いと思うので、なるべく表紙を見せるような工夫が必要と担当に伝えたところである。

小さい頃から本に親しむという意味で、展示の仕方や子どもが楽しめるコーナーを設置するなどの工夫が必要であり、栃木の図書館に行った際も、もう少し子どもが楽しいなど思えるような工夫が必要と感じた。

○西協委員

お正月に藤岡の図書館に行ったが、本を借りるところに手作りのガチャガチャがあり、カプセルの中に缶バッジが入っていて、それが2才の子どもに好評で、お正月に3回も通うほどだった。図書館に興味を持たせる良いアイデアだと思った。

○林委員

大人の方には、なぞり書きシリーズが人気であり、大人が古典を読むだけでなく、源氏物語や東海道五十三次など古典を書き写すシリーズが売れている。読むだけでなく、書き写しながら物語を理解するという大人も増えているので、そんな工夫やコーナーもあると良いと思う。

○大塚委員

ビブリオバトルのことが明記されているが、いつやっているのか等の情報が届きにくい。うまく周知していただけたらと思う。

参加者が偏ってしまうところはあるが、参加型というのは素敵な企画であると思うので、ぜひ様々な世代が参加できるような取組みをお願いしたいと思う。

○生涯学習課長

市の周知がなかなか伝わりにくい部分がある。図書館にも掲示物やチラシを設置しているが、興味がある方は情報を自ら取りに行くが、興味が薄い方においては、お知らせをすると反応はあるが、自分から情報を取りにいかないことがある。市としては全方位的に情報ツールを用いて発信し続けていくしかないと考えている。

写本については図書館になじみがなく、書かれてしまうと次の方が困るものであるため、今後図書館の講座として写本の教室等を行い、その際に手本として万葉集や新古今和歌集など実際の本も借りていただくという仕組みは必要と考えている。

先ほどガチャガチャの話もあったが、各図書館でそういった工夫をしているところである。

展示において、図書館のスペースの問題もあるが、閉架書庫が図書館から離れていることも多く、加えて閉架図書の部分が大きくないことから、展示している書物の入れ替えが簡単にできないということもある。

今後図書館を整備していくに当たり、施設の展開においても気を付けていきたいと思う。

○大川市長

広報の難しさもあり、周知が行き届かない部分もあるが、栃木市立文学館でビブリオバトルを行った際には好評であった。藤岡の図書館でも行ったが、40名の方にご参加いただいたと聞いている。

○生涯学習課長

ビブリオバトルについては、単純に募集することもあるが、分野限定や作家限定などの興味をそそるような形でやっていくことで、内容をより掘り起こすことの深度が深まりやすい。

また、作家限定の際には、市にゆかりのある方や近隣から来ていただけそうな作家の方を我々で探しながら、声を掛けられる作家の方にお越しいただき、審査やサインをしていただくような機会を設けるなど、参加者がそういった交流をしつつ、本への興味を深めていただくという点ではビブリオバトルはすごく有効だと思われるので、今後もいろいろな分野において展開していきたい。

○福島委員

ビブリオバトルもそうであるが、本に興味がある方は網に引っ掛かるが、興味のない方は引っ掛かりづらい。本を読む人が限られてきている中で、本を読むという行為が楽しいと思えないとそういったビブリオバトルなどにも参加しないのではないかと考えている。

資料を拝見した中で、幼児期は本と出会い楽しむ、小中学校では本で知ることを楽しむ、成人期では本が役立つことを楽しむとあるが、具体的にどのように楽しむのかを示していないと思う。先ほど市長もおっしゃっていたが、目で見て子どもたちの興味をそそるといふことや、感動的な絵本を小さいころからたくさん読んでもらって、本というものは楽しい世界なんだと知らしめる事も重要である。小さいころから本は楽しいものなんだと思わないと、中学校や大人になったときになかなか本を読まないと思う。図書館においても、興味を

持てる、満たしてくれる本を読める環境づくりが重要なのではないか。

今の人たちは本を読む時間もなく、知りたい情報をスマホで調べ、自分をカスタマイズしている生活が普通になっている。知らないことを知るということは、時間的余裕がないと成り立たず、労働時間も含めて、社会全体で余裕をつくっていかないと読書が広がっていかないとといった一つの要因だと思う。

○大川市長

今はスマホで本を読む時代であり、ドラマですらテレビで見ずにスマホで見ている。便利になりすぎてしまって、紙で読むことがなくなってきていると感じる。

○福島委員

スマホは様々な情報が入ってしまう。例えば、タブレットなどを本を読む限定のものにして、自分の気に入ったところをスクリーンショットで撮って記録しておくなどの活用は、逆に読書の向上につながる良い方法でもある。ただし、スマホで読んでいると余計な情報も入るため、集中はしにくいと思う。

○大川市長

読書離れや文字離れになってきていることは確かである。小さいうちから本は楽しいものだと思わせることが重要と思う。

飛び出す公務員の首長会議が中野区であり、中野区の図書館では赤ちゃんコーナーがその一角にあり、展示スペースは広くはないが、目で楽しめるような展示の工夫が感じられた。その日は大きな絵本の読み聞かせをしているところを紹介していただいたが、話の続きがどうなるのかと大人でも夢中になってしまうほどであった。本は楽しいものであると思っていただくことが大切であり、この読書活動推進計画を実現していかなければと考えている。

② 歌麿を活かしたまちづくりについて

○事務局：地域振興部 蔵の街課

※資料により説明

○大川市長

皆様からのご意見・ご質問を伺いたしたいと思います。

○青木教育長

子ども向けのイメージキャラクターを活用した冊子というのは先ほど紹介のあったイラスト入りの漫画で、こちらは自前で描かれたものか。

○蔵の街課長

こちらの漫画は、本市の魅力発信特使である田代様に依頼している。小学校4年生対象であるので、若者向けというよりはデフォルメした人物でストーリーを展開していきたいと考えている。

また、漫画とは別に若者向けのイラストを紹介したが、そちらについては職員が手掛けたものである。

○後藤委員

歌麿まつりが13回目となるということで、10年位前の教育委員長をやっているときに、地域の方から、なぜ教育委員会が風俗を肯定的に見るような祭りに参画しているのかという話があった。そういった受け止め方をする方が少なからずいるということを感じた時に、風俗としてでなく、栃木市にゆかりのある浮世絵師として軸をしっかりと設定したのは素晴らしいことである。

また、アメリカの方々が、日本の浮世絵に高い関心を持っている。日光東照宮ほどではないと思うが、外国の方が近い将来に栃木市へそれらを観に来るのではないかと期待している。その時のための多言語対応ガイドブックの作成や、案内ガイドの方の研修会の実施等の予定はあるのか。

○蔵の街課長

浮世絵文化が海外で注目されていることは感じているところである。現状はグローバルに関連した対応については、まだ追い付いていない状況にあるので、いただいたご意見を協議会等と共有し、今後、観光協会等と連携して、どのように展開していくかを考えていきたい。

4月に東京藝術大学大学美術館にて大吉原展が開催されたが、そこでは当時の吉原という制度を推奨するのではなく、文化として見ていただくように、我々も歌麿まつりを、歌麿道中において、当時の制度を正当化するわけではなく、華があるという視点から見ていただけるように今後気を付けなければと思う。

○大川市長

現在歌麿交流館というところで、旧金澤邸にて情報を発信している。そこに来る外国の方でもわかるような展示の仕方が必要かと思う。

○蔵の街課長

本年度6月から歌麿交流館として開館したが、気軽に立ち寄れる立地の良い場所にある。外国の方向けには散策絵図という案内冊子の中で英語・中国語の表記にて、案内をしているが、まだ市民や国内の方が多と思われるので、そのあたりも会員の方と連携を進めていきたいと考えている。

歌麿交流館に立ち寄っていただける方も増えており、また、今年の大河ドラマ「べらぼう」との連携を図っていければと思っている。

○大川市長

栃木の歌麿まつりは、特に花魁道中をとということではなく、最初から意識して蔦屋重三郎や歌麿も登場しており、ほかの花魁道中とは違う祭りをやっている意識を持ち、早くからアピールしているところである。

後藤委員もおっしゃったように、こうした吉原という場所において、文化ではあるが特殊なところでもあるので、教育委員会や子どもたちに発信しているのかという議論は以前からあり、市の方にも苦情が寄せられたが、事実として、このような文化があったことを受け入れなければならないと思う。NHKの放映でも花魁の生々しい姿が衝撃的であった。そういった今まで触れられなかった部分も、NHKで放映するということが驚きであり、その中の声を聴くと、覚悟をもって望んでいることが伝わってきた。様々な意見はあるが、ドラマの評判は上々であり、せっかくの機会であるため、栃木市もこの機会を逃さずPRをしていこうと思う。

○福島委員

風俗においても、1つの文化であると考えている。それらを後世に伝えていくことは大切である。説明のあったキャラクターは、子どもたちにとっての入り口としては良いものであるが、大人にとっては、文化としての本物が胸を打つものであると考える。

また、栃木駅を降りたときに、街から歌麿のにおいがしないと感じる。先日東京の美術館で開催された田中一村展や栃木市立美術館で開催されている 清水登之の企画展などもあまり見えてこない。文化としての素材がたくさん栃木市にはあるはずなのに、なぜ個別で展開しているのかが不思議である。本物の文化を持っているのだから、例えば駅を降りて、歌麿の絵や田中一村の絵が街中にあったりというような、街ぐるみで文化の市づくりをしているというところが見えてきても良いのではないかと思う。これだけいろいろな素材のある街なのでもったいないと思う。

○大川市長

駅を降りたら、目立つところに歌麿や蔦重でパネルなどが見えてくればと思う。駅を降りて旧金澤邸まで来ないと歌麿や蔦重の情報が入ってこない現状であるので、駅の構内にて絵の展示や啓発があってもよいと思う。

○福島委員

例えば歌舞伎の街であれば、歌舞伎役者の絵が飾ってあり、ここが歌舞伎の世界なのだなと思える。栃木駅で下りて思わず写真を撮りたくなるようなそんな街づくりもよいのではないかと思う。

○蔵の街課長

貴重なご意見として参考にさせていただきたいと思う。

○大塚委員

今後の展開として、小・中学校を対象のデフォルメイメージのキャラクターで冊子を作られているとあったが、今読んでいる漫画は小学4年生をメインとしているが、これが中学校になるとキャラクターはさらに中学生向けのキャラクターとして描かれていくのか。

○蔵の街課長

漫画につきましては、小・中学生でも理解しやすいように作成した。ただし、中学生としてはデフォルメでない方がよいこともあるかとは思いますが、ストーリーとしてはデフォルメしたキャラで歌麿の存在を知らせていく予定である。

キャラクターについては、蔵ミュゼのアプリを利用した展開を考えている。

○蔵の街推進係長

現在、古い歴史的建造物の前に QR コードがあり、それらを蔵ミュゼのアプリを通してスマホで読み取ると、建物の説明などがなされる。今後は AR を用いてキャラクターを前面に映し出させるようなことを考えており、古い建物だけでなく歌麿にも興味を持っていただければと思う。

それらを進化させて、各地のポイントを回り、最後にレアなキャラがゲットできるというような、街中の回遊性も高めていきたいと考えている。

中学生となるとデフォルメの漫画では物足りないかと思うので、今後は従来の等身のキャラクターを用いて新たなストーリーが作れればと思っている。

○大塚委員

QRコードを読み取り、キャラを集めると何かをもらえるようなイベント等の考えはあるか。

○蔵の街推進係長

現状、キャラクターが全てできあがっていない状況である。隠しキャラのようなレアキャラをつくりたいと考えている。すべてのキャラを集めるとそのレアキャラがもらえて、それらをストーリーに紐づけていければと考えている。

○大川市長

このせっきくの機会に栃木市をPRし、また、子どもたちにふるさとを知ってもらうという大きなきっかけ作りになると思われるので、様々な取組を頑張っていきましょう。

4 その他

次回開催は令和7年度を予定。

5 閉会